

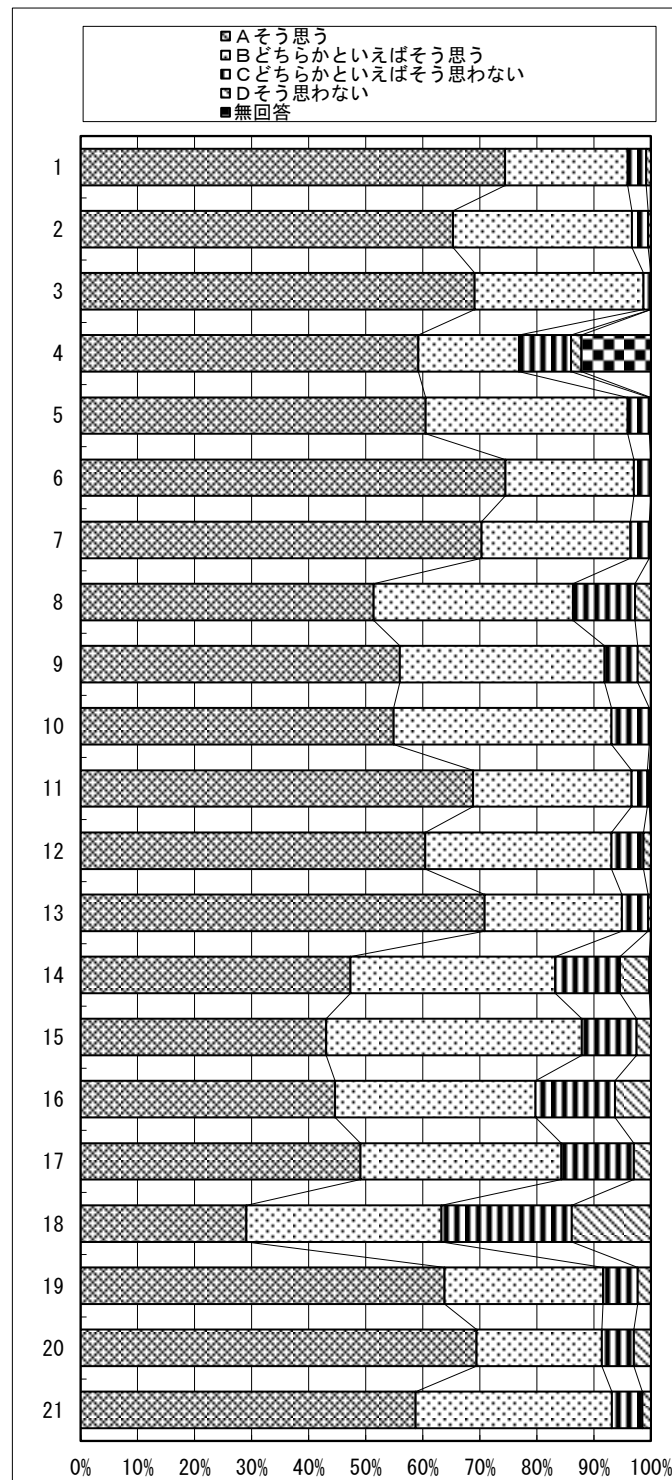
令和元年度

学校評価アンケートまとめ

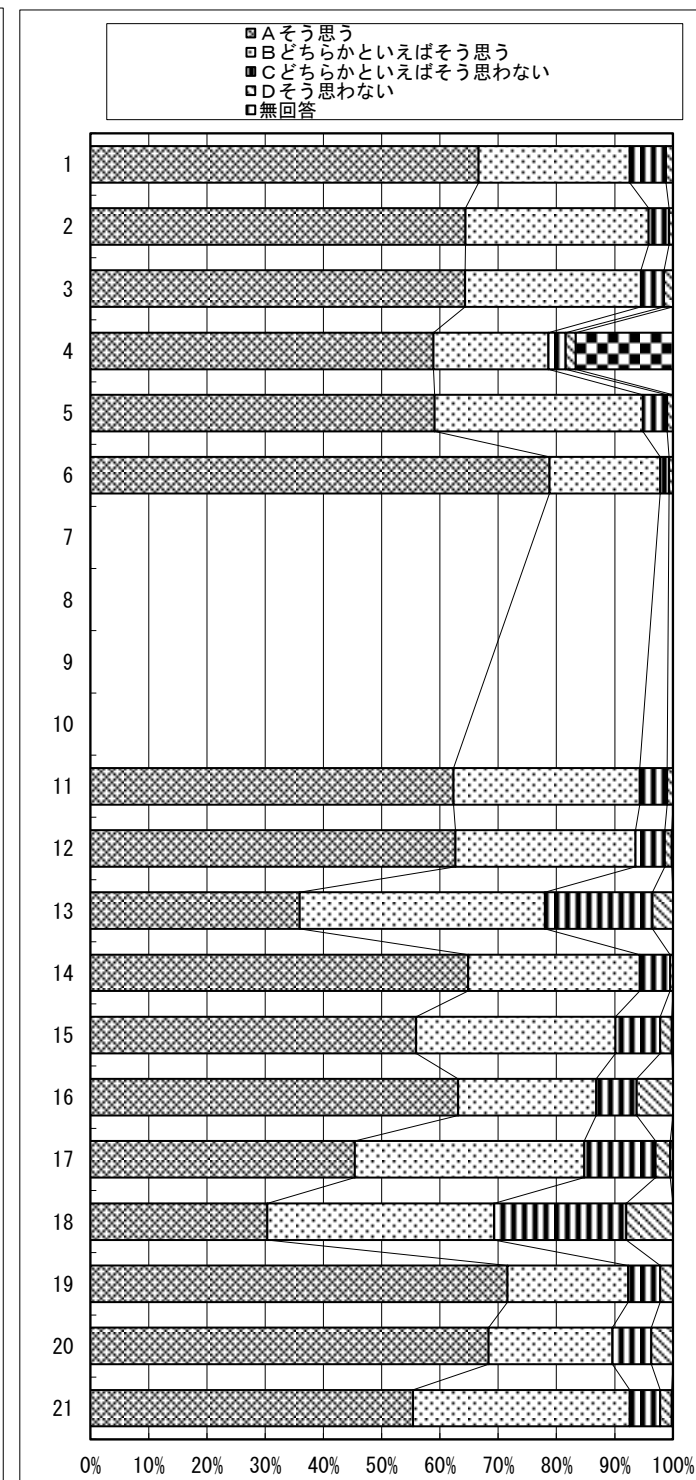
和歌山大学教育学部附属中学校

No.	質問内容
1	私は、学校に行くのが楽しい。
2	私は、学校の授業が充実していると感じている。
3	私は、学校のルール(服装・身なり・時間など)を守って生活している。
4	私は、部活動に参加し、充実した活動を送っている。(部活動加入者のみ)
5	先生は、学習方法や学習で分からないところなどを指導してくれる。
6	先生は、I C T機器や教具を活用するなどして、授業を工夫している。
7	私は、学校で、タブレット端末等のI C T機器を積極的に活用して学習している。
8	私は、海外の生徒や学校と交流することで、学校生活や学習への意欲が高まった。
9	私は、授業などで話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
10	私は、先生に示された課題や自分たちが立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいる。
11	先生は、ときにはきびしく、ときには優しく生活について指導してくれる。
12	健康や安全(自転車通学など)についての学習は、いざというとき等に役立っていると思う。
13	先生は、通知表や懇談会等とともに、普段から自分の学習状況を伝えてくれる。
14	私は、職業や働くこと、将来の進路についての学習に、しっかりと取り組んでいる。
15	私は、学校で地震や火災が発生したときに、あわてずに避難行動をすることができると思う。
16	悩み事があるときでも、学校にはスクールカウンセラーなど相談できる人がいるので心強い。
17	校内の掲示物は、いろいろと工夫され充実している。
18	学校のホームページや「たより(学級通信や学年便りなど)」をよく読んでいる。
19	学校の施設や設備に不便を感じることはない。
20	学校行事(附中杯や校内音楽会など)に満足している。
21	学校は、「豊かな心、やりぬく力」を目標に生徒を育てようとしている。

令和元年度

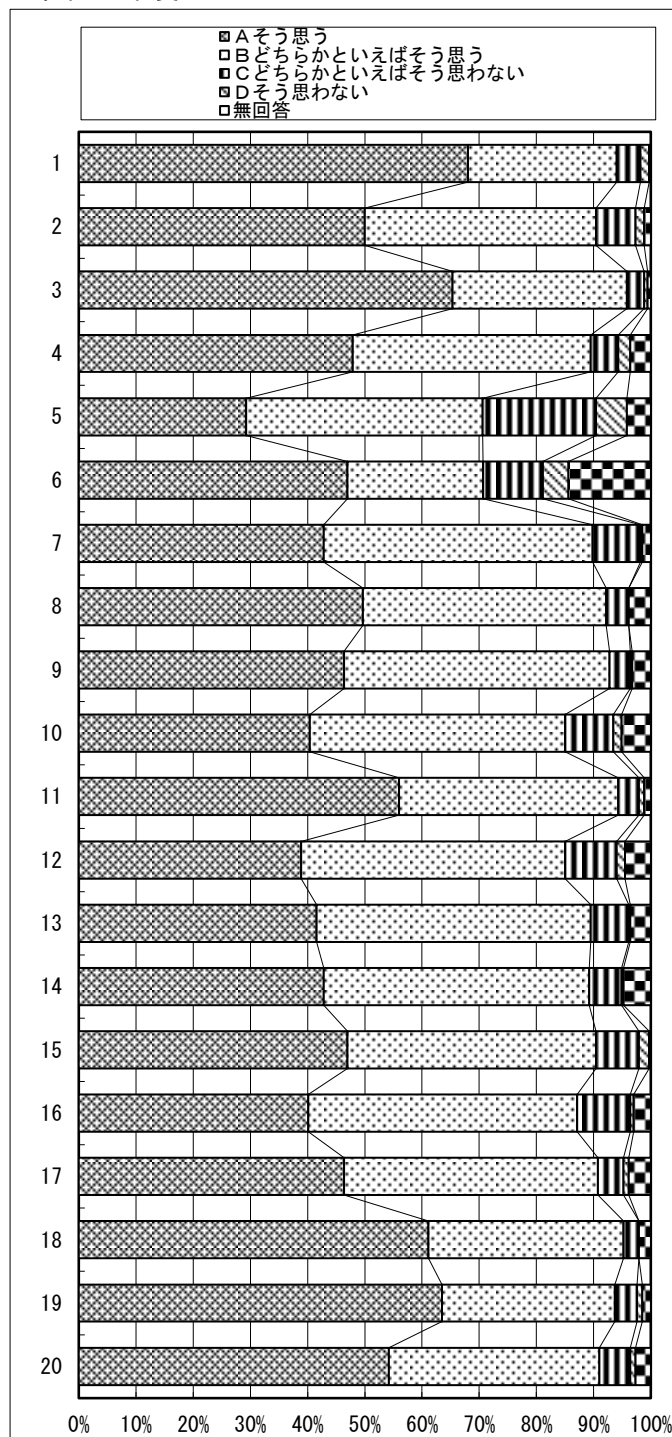


平成30年度

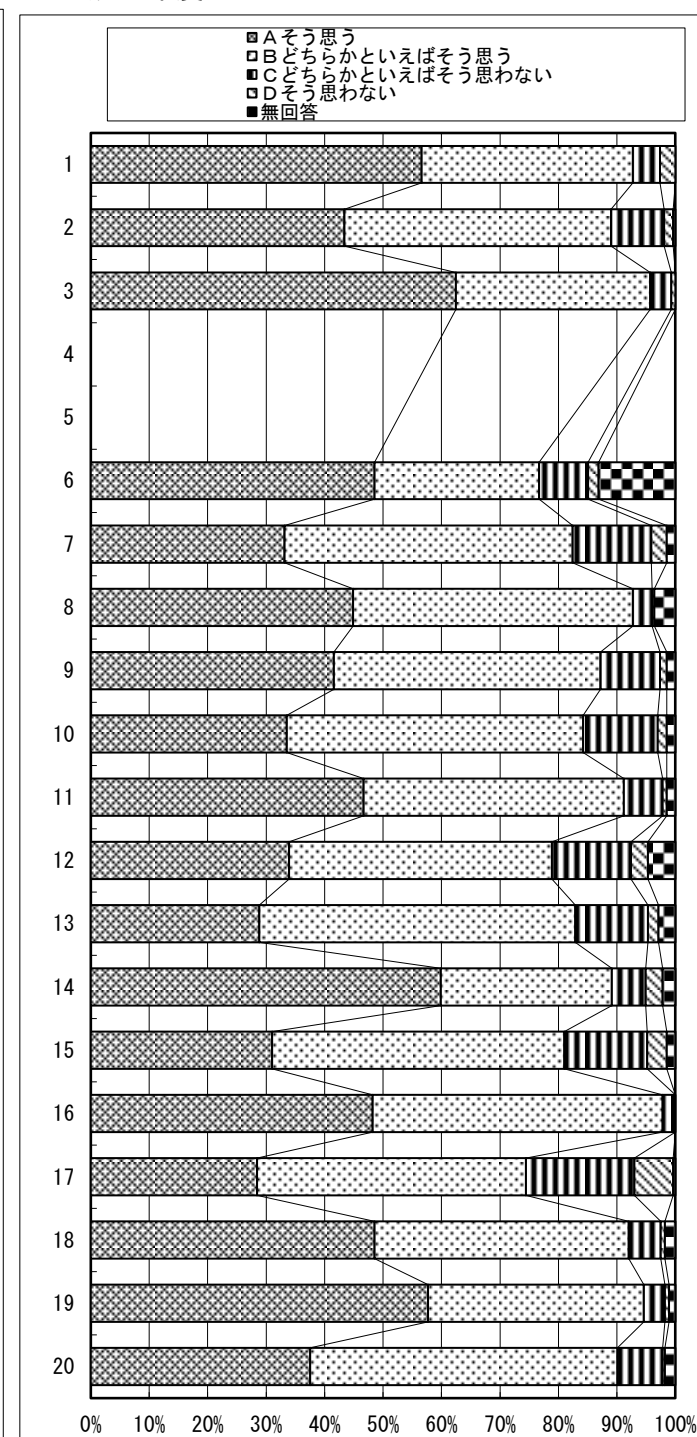


No.	質問内容
1	お子さんは、学校生活に、楽しく生き生きと取り組んでいる。
2	お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいる。
3	お子さんは、ルール（服装、身なり、時間など）を守って生活している。
4	お子さんは、学校で、タブレット端末等のICT機器を積極的に活用して学習している。
5	お子さんは、海外の生徒や学校と交流することで、学校生活の意欲が高まった。
6	お子さんは、部活動に参加し、充実した活動を行っている。（部活動加入者のみ回答）
7	教員は、子どもの状況を良く理解し、適切に学習指導を行っている。
8	教員は、ICT機器や教具を活用するなどして、授業を工夫・改善している。
9	教員は、「ときには厳しく、ときには優しく」など生活指導を適切に行っている。
10	教員は、進路についての情報提供や、子どもの進路選択に役立つ相談等を適切に行っている。
11	学校は、通知表や懇談会等を通して、保護者に学習状況を適切に伝えている。
12	学校は、職業観の育成（キャリア教育）に積極的に取り組んでいる。
13	学校は、生徒の安全や健康な生活のための対策を適切に行っている。
14	学校は、スクールカウンセラーや相談室等、生徒や保護者への相談体制を整えている。
15	学校は、ホームページや各種の「たより（通信）」で、学校や生徒の様子を伝えている。
16	学校は、保護者と協力し理解しあいながら、お子さんの学習や生活指導を行っている。
17	学校は、保護者が参加する行事（育友会行事を含む）や活動を充実させている。
18	学校は、教育活動に必要な施設・設備等を整備し充実させている。
19	学校は、特色ある教育活動を行っている。
20	学校は、「豊かな心、やりぬく力」を目標に生徒を育てようとしている。

令和元年度



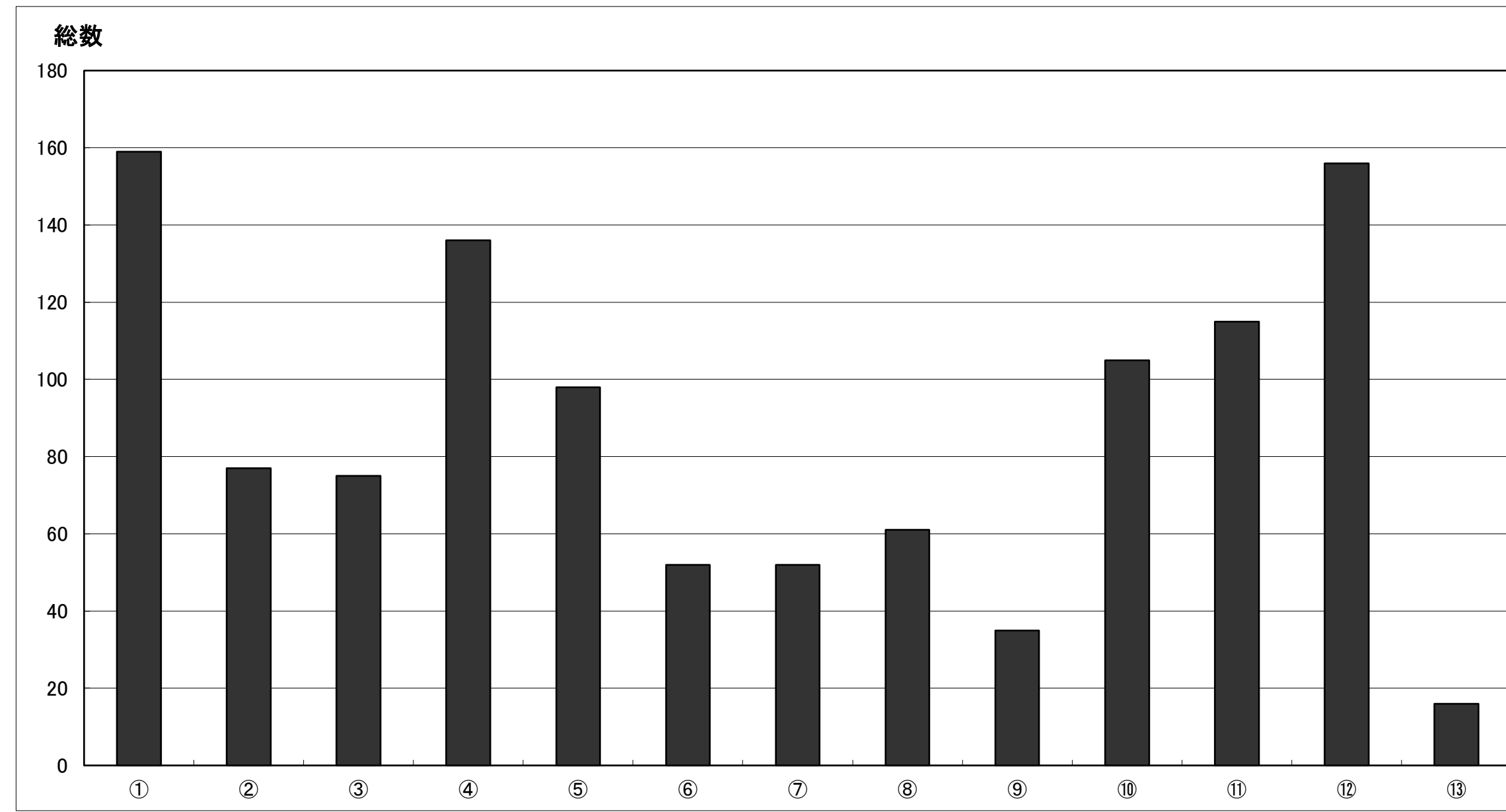
平成30年度



重点として取り組んでほしい内容 保護者

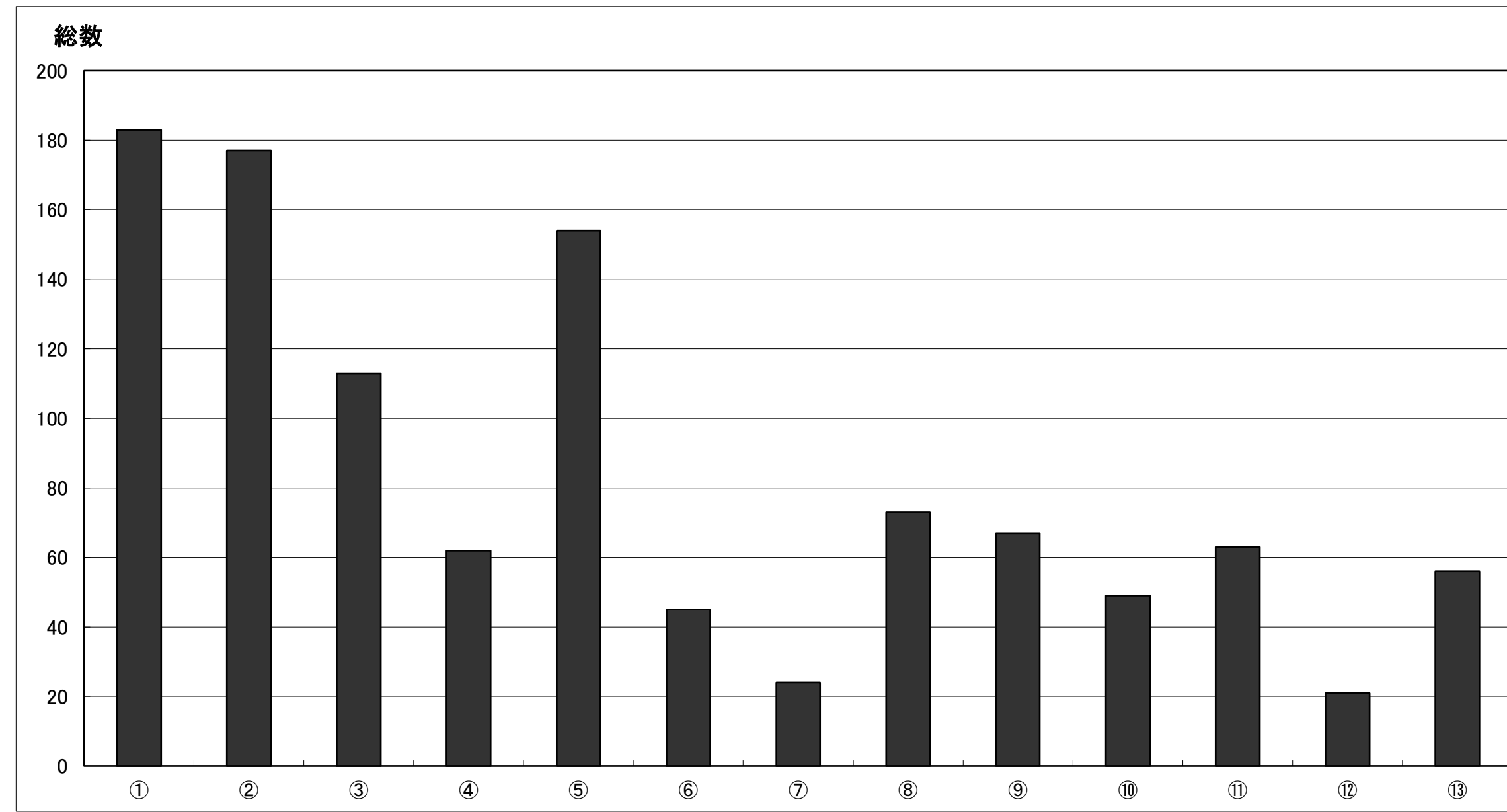
令和元年度

1	各教科指導の工夫・改善
2	道徳教育
3	総合的な学習の時間
4	行事や体験的活動
5	学年・学級づくり
6	基本的な生活習慣の定着
7	相談や支援体制
8	施設・設備など教室環境充実
9	附属小学校や附属特別支援学校との連携
10	大学との連携(教育研究・教員養成)
11	様々な場面でのICT活用
12	国際交流・国際理解教育
13	その他



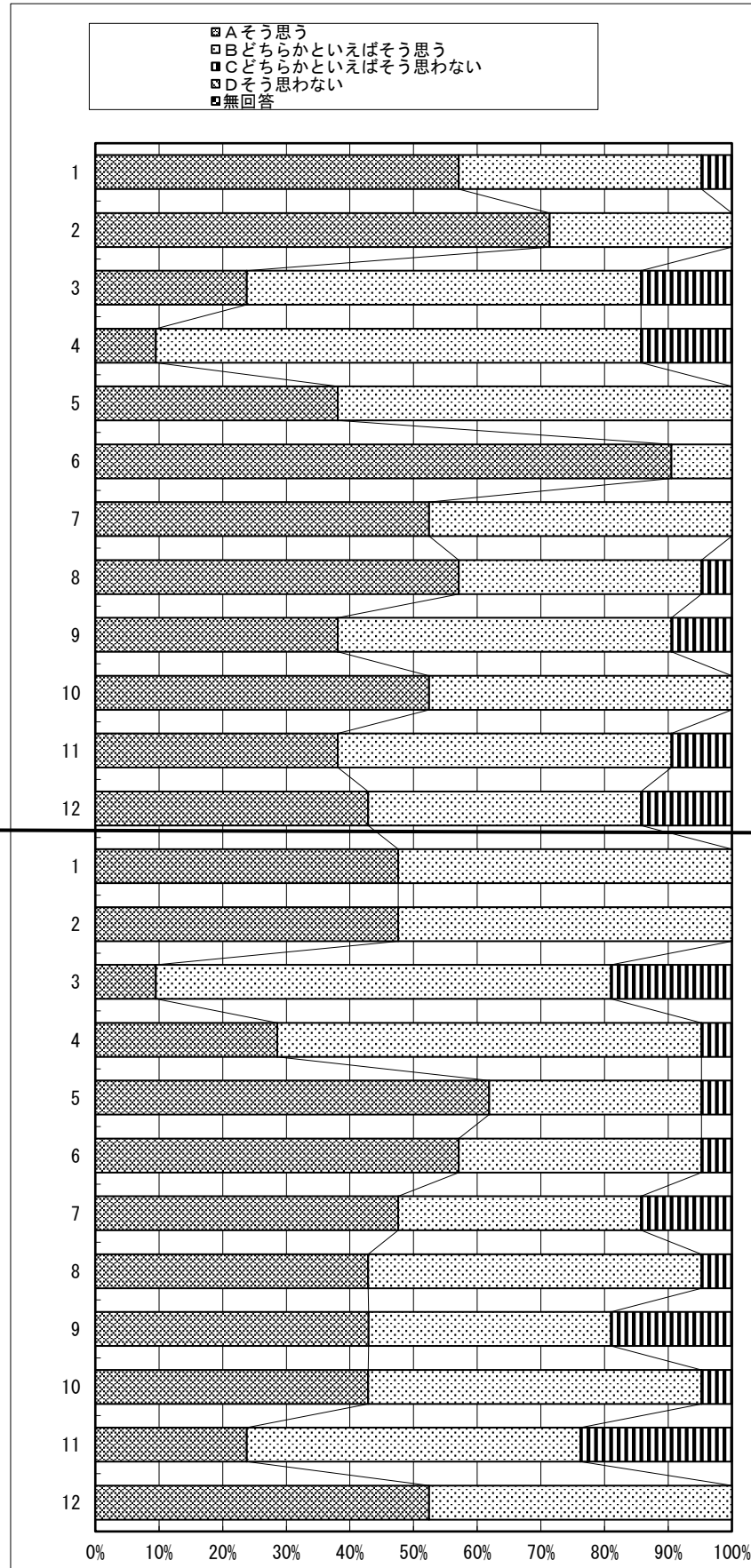
平成30年度

1	学力の向上と定着を図る必修教科の学習の充実
2	自ら学ぶ力をつける選択授業や総合の時間の充実
3	心を育てる道徳教育の充実
4	宿泊研修や行事などの体験的活動の充実
5	いじめのない温かな学年・学級づくり
6	服装、挨拶、時間厳守などの基本的な生活習慣の定着
7	生徒が自主的に活動する生徒会活動の充実
8	生徒理解や相談活動が出来る体制づくり
9	学校と家庭・地域の連携や信頼関係の強化
10	学校や教室環境などの整備・充実
11	部活動の充実
12	附属小学校・附属特別支援学校との連携強化
13	和歌山大学との連携強化

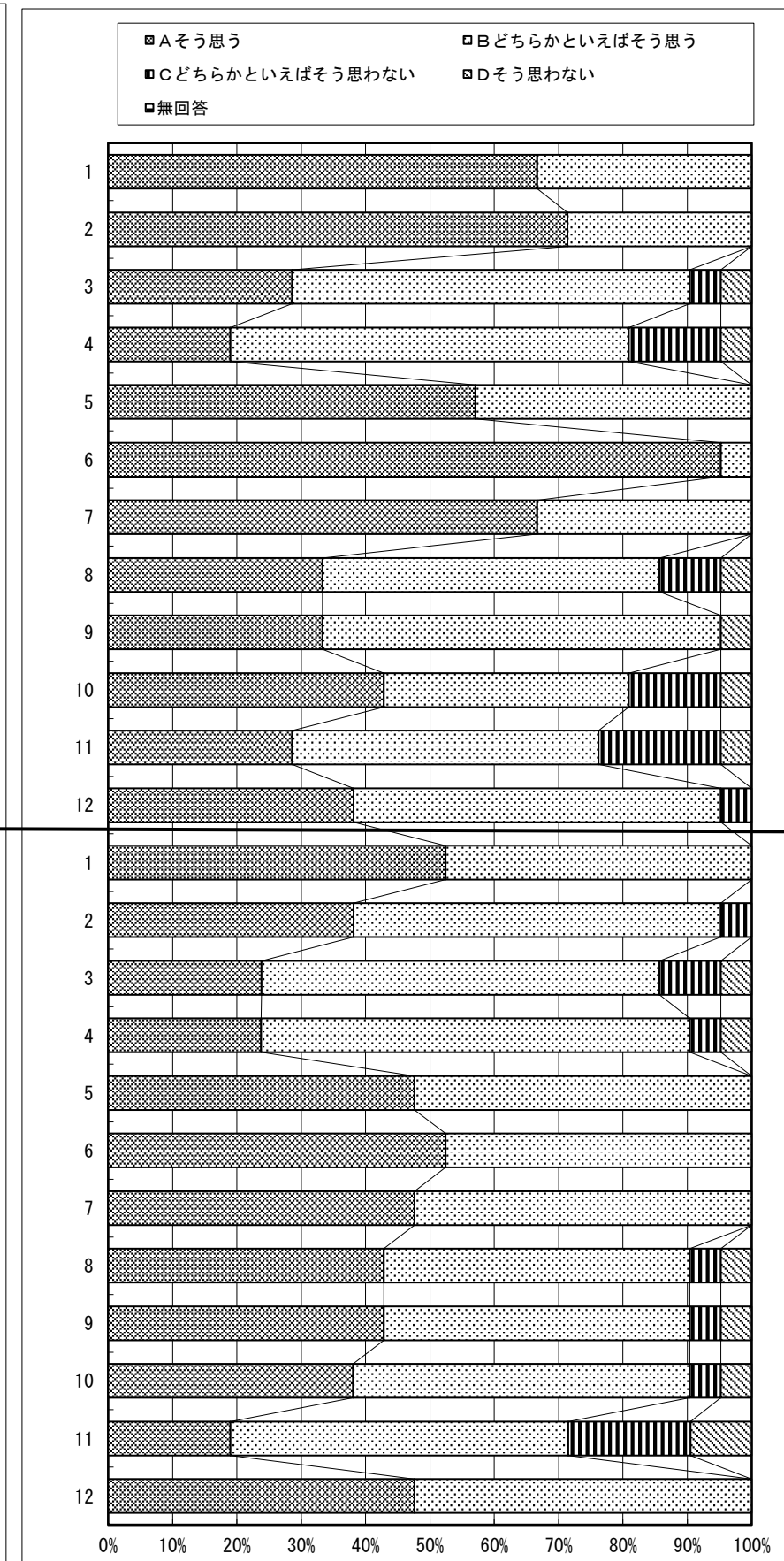


No.	質問内容
学校として	1 「豊かな心、やりぬく力」や目指す学校像を目標に、生徒を育てようとしている。
	2 附属学校として使命を十分に果たし、その特性を活かしている。
	3 教育計画に基づいて取組が進められ、その成果や課題が次年度に活かされている。
	4 校内委員会や校務分掌が適切に組織され、十分に機能している。
	5 生徒や保護者のニーズに応えた特色ある教育課程を編成している。
	6 校内研修が計画され、外部への公開授業や研修会などを積極的に実施している。
	7 学力の定着を図るために授業の改善や工夫など適切な学習指導を行っている。
	8 基本的な生活習慣の確立や身だしなみ指導など協力体制の下で行われている。
	9 生徒の健康の保持増進や、身体の安全を守る取り組みが十分になされている。
	10 生徒への教育相談が行われ、生徒の悩みや不安に対し支援が十分になされている。
	11 生徒や保護者に「各種のたより」やホームページにより情報を提供している。
	12 校舎や校庭、教育機器が十分に補修・維持・整備され、問題なく利用することができる。
職員個人として	1 「豊かな心、やりぬく力」や目指す学校像を目標に、生徒を育てようとしている。
	2 附属学校の職員としての使命を十分に果たし、その特性を活かしている。
	3 教育計画に基づいて取組を進め、その成果や課題を学校全体に反映できた。
	4 校内委員会や校務分掌の役割に責任を持って取り組み、計画的に実践した。
	5 生徒が興味を持って意欲的に学習に取り組めるような、教育内容、教材・教具等の工夫を行った。
	6 校内外の研修に積極的に関わり、指導力や学校力の向上に努めた。
	7 学力の定着を図るため、目標に準拠した評価を行うとともに学習指導の改善を行った。
	8 基礎的な生活習慣の確立のために、適切な指導や助言、支援を行った。
	9 生徒の健康の保持増進や、身体の安全を守る指導を行った。
	10 生徒の悩みや不安に対して、積極的に応じることができた。
	11 学年・学級・教科などの通信を活用し、取り組みの様子を積極的に発信している。
	12 教育機器等を積極的に活用し、適切に管理、整備している。

令和元年度



平成30年度



令和元年度 学校評価アンケートについてのコメント

凡例 ○…読み取れる事実など、■…事実の解釈

【生徒】

昨年度との主な変更点

- ・ 質問を3問削除、4問（7，8，9，10）追加し、21問とした。
- ・ 質問の文言を修正し、配列を大幅に変更した。
- ・ Web フォームに入力して回答する形式にした。

- 肯定的な回答（A+B）が80%を超えたのは18項目あり、そのうち14項目で90%を超えている。「3 ルールを守る」が最も高く、98.7%であった。
- 肯定的な回答（A+B）が80%を超えなかったのは、「4 部活動（76.9%）」、「16 相談体制（79.8%）」、「18 ホームページや学級通信（63.3%）」であった。これらのうち、否定的な回答（C+D）が20%以上であったのは、「16 相談体制（20.2）」と「18 ホームページや学級通信（36.7）」の2項目であり、項目数は昨年と同じである。
- Aの回答が60%以上であったのは11項目あり（平成30年度も11項目）、特に「1 学校が楽しい」（74.4）、「6 工夫した授業づくり」（74.4）、「7 ICT活用」（70.3）「13 学習状況の伝達」（70.9）は70%を越えた。
- Aの回答が40%以下であったのは、「18 ホームページや学級通信」（29.1）の1項目であった。
- 「1 学校が楽しい」において、Dと回答した生徒の割合は0.8%である。昨年度1.2%、平成29年度2.6%、平成28年度3.1%と、年々少なくなっている。
- 「6 先生のICT活用」「7 生徒のICT活用」では、いずれも、Aの回答が70%を、肯定的な回答（A+B）が96%を超えている。
- 「8 国際交流による意欲向上」は、Aの回答が50%近くあり高いものの、Cの回答が10%を超えている。個々の生徒により評価にばらつきがある。同様の傾向は、「14 キャリア教育」「15 防災教育」「17 校内掲示物」でも見られる。

- 全体的には、良好な評価を得ている。
- ICT活用についての評価は高い傾向にある。
- 「伝える」ことに関する評価が低い傾向にある。
- 評価の分かれる項目に関して、工夫改善する必要がある。

【保護者】

昨年度との主な変更点

- ・ 質問を2問削除、2問（4，5）追加した。
- ・ 質問の文言を修正し、配列を大幅に変更した。
- ・ 学校への要望 項目を一部変更するとともに、項目のみの簡潔な標記に改めた。

○Aの回答が60%以上であったのは、「1 学校生活」、「3 ルールを守る」、「18 学校の施設・設備」、「19 特色ある教育活動」の4項目であった。（平成30年度は1項目「3 ルールを守る」）

○Aの回答が40%以下であったのは、「5 国際交流による意欲向上」「12 キャリア教育」の2項目であった。平成30年度の8項目から、項目数が大幅に減った。

■昨年と同様に無記名での実施であったが、例年よりも回答数が増加し（回収率約80%）、全体的に肯定的回答が増えた。

■例年、生徒の評価に比べると保護者の評価は総じて低い傾向にある。今年度、Aの回答は例年と同様であるが、肯定的回答の割合については、生徒と同様に高くなっている。

○C及びDの回答（無解答を除く。）が20%以上であったのは、「5 国際交流による意欲向上」（25.2%）の1項目であった。（平成30年度は1項目）

○重点として取り組んでほしい内容は、「①各教科指導の工夫・改善」が最も多く、「⑫国際交流・国際理解教育」がほぼ同数で続いている。さらに、「④行事や体験活動」、「⑪ICT活用」、「⑩大学との連携」が続いている。

■「国際交流による学習意欲向」についての評価は分かれているが、学校の重点取組としての「国際交流・国際理解教育」への期待は大きいとみられる。また、今年度から開始した一人一台タブレット端末環境に対しての期待も大きいですが、活用方法や指導内容等に関しては、丁寧かつ慎重さを求める意見がある。

【教職員（自己評価）】

昨年度と変更なし

- 平成30年度と比較すると、「学校として」「職員個人として」とともに、全体的に（C＋D）の割合がやや減少し、Dの評価がなくなった。
- 肯定的な回答（A＋B）の割合が100%であったのは、学校全体としては5項目（昨年度4項目）、「2 附属学校の使命を果たす」、「5 特色ある教育課程」、「6 校内研修・公開研修」、「7 学習指導」、「10 教育相談・支援」である。
- 学校全体としての「10 教育相談・支援」について、大きく改善した。
- 肯定的な回答（A＋B）の割合が100%であったのは、職員個人としては3項目（昨年度5項目）「1 教育目標」、「2 附属学校の使命を果たす」、「12 教育機器の活用」である。
- 平成30年度の研究・研修体制（教員が4グループに分かれて相互に研修を企画・運営する仕組み）を変更したが、評価に大きな変化はみられない。今年度、スクールカウンセラーの配置日数を減らし、教育相談コンサルティングを導入したことが、教育相談・支援の自己評価向上に関わっていると考えられる。
- A・Bを併せた肯定的回答が80%以下であったのは、個人としての「11 通信等の情報提供」のみであった。
- Aと回答した割合が30%以下であったのは、学校全体としては2目（平成30年度は3項目）であり「4 校務分掌」で割合が特に低く、「3 教育計画遂行等」がこれに続いている。また、個人としては、3項目（平成30年度は3項目）であり、「3 教育計画遂行等」が最も低く、「11 情報提供」、「4 校務分掌」が続いている。
- 一人一台タブレット端末の導入などに関して、校内外に積極的な情報発信を行った。日常の取組においても、学校だより、web場での情報提供などを定期的に発信しているが、改善の余地がある。教育計画や校務分掌については、例年、小規模な見直しにとどまっており、昨今の教育改革の現状に追いついていない状況を反映しているものと考えられる。